

オートバックスセブン  
株主通信

Vol.13

第59期

# Show Get-key

しょうげき～衝撃～

中間事業報告書 2005年4月1日から2005年9月30日まで

オートバックスグループの大義

# 「車好きのユートピアをつくる」 「世界中のドライバーを車好きに変える」

二つの大義を実現するため、私たちオートバックスグループは、  
カーライフスタイルの創造者として行動します。

オートバックスグループ創業の原点、それは「お客さまに車の楽しさをもっと伝えたい、お客さまのカーライフをもっと豊かにしたい」という熱い思いです。オートバックスブランド誕生から30年以上が経過し、グループ500店舗を超える業界のリーディングカンパニーへと成長した現在でも、この気持ちは決して変わりません。

車はただの乗り物ではなく、私たちの人生を豊かに変え、生活を楽しくしてくれるパートナーであるということを伝えたい。車が秘めている楽しさをできるだけ多くの方と分かち合い、世界中の人に車を好きになってもらいたい。そして車のある生活をもっともっと楽しんでワクワクしてほしいのです。

私たちはこれからも、人と車が調和した社会とより充実したカーライフを提案し続けることで、お客さまと車の楽しさや走る喜びを共有するとともに、お客さまの満足とオートバックスグループの成長のために挑戦を続けます。

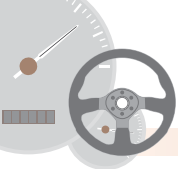
## 目次

- 1 オートバックスグループの大義
- 2 ごあいさつ
- 5 AUTOBACS GROUP Business Pick Up  
車検・整備 Part 2「テクノキューブ」
- 7 Store Format Strategy – 店舗戦略  
スーパーオートバックス
- 9 トピックス
- 10 オートバックスグループの  
プライベートブランド商品
- 11 財務報告
- 17 株式情報
- 18 会社情報

ホームページのご紹介

### 見直しに関する注意事項

この株主通信に記載してある戦略や今後の事業展開など歴史的事実に基づいていない部分は、現在入手可能な情報から得られた経営者の判断に基づいたものであり、実際はさまざまなリスク要因の変化により異なる結果となることがあります。



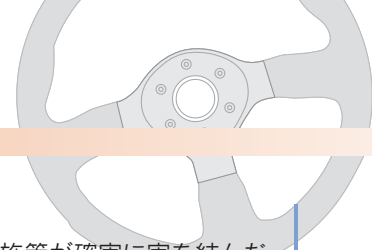
株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、オートバックスセブン株主通信「Show Get-key」Vol. 13をお届けします。今号は第59期中間事業報告書も兼ねておりますが、弊社へのご理解を深めていただくための記事も掲載しています。「お客さまにワクワクするカーライフを提案したい」、そんな私たちの想いがこの冊子を通じて伝わることを願っています。

### 当中間期業績のご報告

当中間期の連結業績は、売上高1,139億16百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益65億8百万円(同189.6%増)、経常利益85億20百万円(同75.6%増)、中間純利益41億8百万円と増収増益を達成することができました(注:当連結会計期間より、会計処理の方法を変更しています。詳細については14ページの「連結会計処理の変更」をご覧ください)。カー用品の市場環境<sup>\*</sup>は、国内景気が引き続き回復基調にあったことから好調に推移し、オートバックスグループにおきましても、既存店の売上回復が業績伸張に大きく貢献しました。

なお当中間期の配当金につきましては、当初予定の1株当たり普通配当21円から5円増配の26円とする予定です。今後も安定的・継続的な配当を前提に、利益成長に応じた増配基調を目指していきます。

<sup>\*</sup>自動車用品小売業協会(APARA)「平成17年4月～平成17年9月上累計資料」



### 実を結びつつある施策

今回の業績伸張は、これまで取り組んできた数々の施策が確実に実を結んだ結果でもあります。例えばカー用品販売においては、ETC 車載器の販売がとりわけ大きく拡大し、さらに商品の購入に店舗を訪れたお客さまが、同時に他のカー用品も購入されるといった相乗効果も見られました。これはクレジット会社とのタイアップによる当社独自の販売施策を推進するなど、オートバックスグループが早期から将来を見据えた戦略的な取り組みを推進してきた成果といえます。またお客さまのカーライフを生涯にわたってサポートする「トータルカーライフ事業戦略」の一環として推進している、車検・整備や車販売も好調に推移し、業績に貢献しています。車検・整備では「テクノキューブ」(5ページご参照)を中心に既存店舗での指定工場認証資格の取得数増加により、車検台数も順調に拡大しました。車販売では従来のメニューに加え、新車販売などを新たに導入したことで、販売数は好調に推移しました。

### 再成長の実現に向けて

カー用品市場における企業間競争は依然として厳しい状況にあります。しかしながらオートバックスグループではこうした厳しい市場環境を勝ち抜くためにも、今回の好業績を決して一時的なものとし、好調を継続し続けるため

## 財務ハイライト

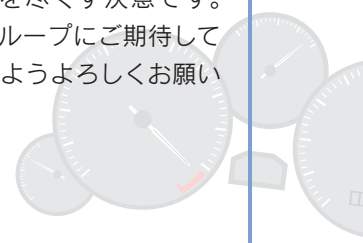
単位:百万円

	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)	第59期中間期 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	増減率(%)
売上高	226,779	107,209	113,916	+6.3
卸売部門	133,384	63,026	65,788	+4.4
小売部門	93,395	44,182	46,127	+4.4
その他	—	—	2,000	—
経常利益	12,694	4,853	8,520	+75.6
中間(当期)純利益(損失:△)	2,928	△1,080	4,108	+480.4
一株当たり情報(円):				
中間(当期)純利益(損失:△)	79.85	△30.45	115.80	+480.3
配当金	45.00	21.00	26.00	+23.8
株主資本	4,196.25	4,106.50	4,296.56	+4.6
総資産	203,224	195,572	206,430	+5.6
株主資本	148,982	145,709	152,440	+4.6

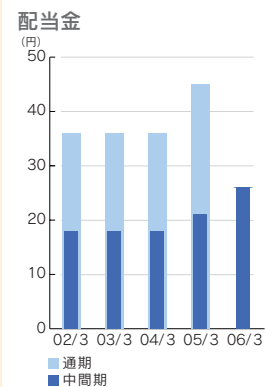
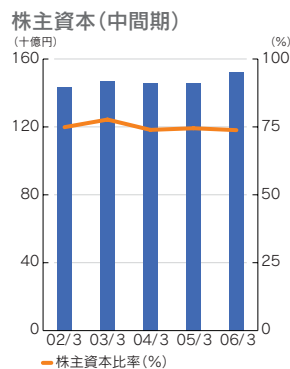
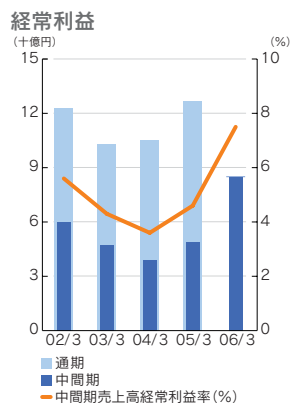
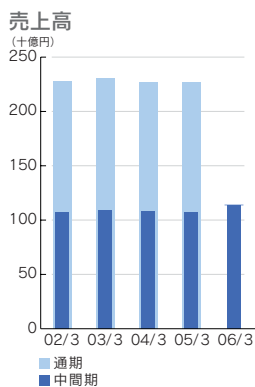
の競争力を維持していきたいと考えています。市場環境の良い今こそ、売上拡大に向けて収益基盤の強化に努めていく方針です。

そして何よりも大切なのは、最前線にいる従業員一人ひとりがお客さまのカーライフをトータルにサポートするという強い想いを持ち続け、サービスの質を着実に高めていくことです。一人でも多くのお客さまにカーライフの素晴らしさを味わって頂くためにも、私たちは全力を尽くす決意です。株主・投資家の皆さまには、今後ともオートバックスグループにご期待していただくとともに、変わらぬご厚情とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2005年11月



住野 公一  
代表取締役 CEO



# AUTOBACS GROUP Business Pick Up

## 車検・整備 Part ② 「テクノキューブ」



前号 (Vol.12) では中期経営計画の中で重要な役割を担う車検・整備を紹介しました。今回はその続きとして、車検・整備のさらなる強化を目的に全国展開を図る「テクノキューブ」を取り上げます。



### テクノキューブとは？

「テクノキューブ」という名称はテクノロジー（技術）とキューブ（建物）を組み合わせた造語で、“技術を有する建物”という意味があります。平成16年7月に第1号店を福岡県福岡市に開設して以来、車検・整備と板金・塗装の専門施設として全国への展開を図っています（平成17年9月末日現在：9か所）。

「テクノキューブ」が提供する基本的なサービスメニューは、車検・整備を中心に、板金・塗装、ディテールリング※1などです。このうち車検については指定工場の認証資格※2を取得し、オートバックスグループで積極的な導入を図っている「早・技車検」を実施しています。施設内には各種オイルや交換部品などを陳列しており、お客さまが実際に交換される商品を選ぶことができるほか、車検検査ラインと待合場所との仕切りをガラス張りにし、お客さまがご自身の目で作業状況を直接確認できるようにしてあります。

※1 ディテールリングとは車のお手入れのこと。ポリマー加工やデントサービス、ガラス撥水加工、ウィンドフィルム加工などが該当します。

※2 国の定める要件を備え、国に代わって自動車検査ができる資格



### <テクノキューブの基本スペック>

敷地面積：250～500坪

ビット数：5～10台

駐車台数：10～20台

従業員数：10～20名

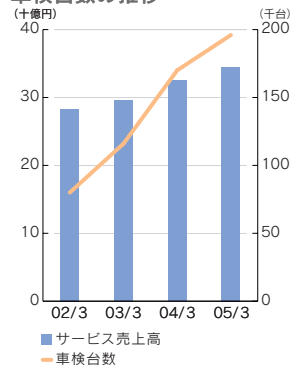
基本サービス：早・技車検、板金・塗装、ディテールリング※1

## テクノキューブ導入の背景

現在国内のカー用品市場(アフターマーケット)は縮小傾向にあり競争が激化していますが、オートバックスグループの車検・整備を軸としたサービス事業は好調に推移しています(右グラフ参照)。しかしながらオートバックスグループの各店舗では、こうしたサービスメニューを実施するピットスペースが不足している状況にありました。そこで各店舗のピット不足解消と車検・整備の強化・拡大を目指して、「テクノキューブ」の導入を開始しました。

「テクノキューブ」は基本的にオートバックスグループ店舗の近隣に設置され、ピットサービスメニューの一部を既存店舗から移管して運営します。これにより十分なピットスペースと専門設備が確保でき、既存店舗の負担が軽減されることで、より多くのお客さまにスムーズなサービスを提供することが可能になります。

サービス売上高および車検台数の推移

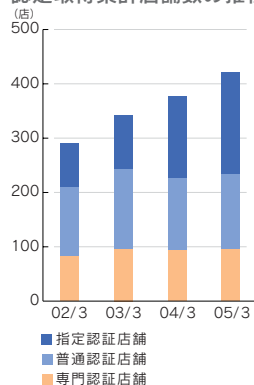


## テクノキューブを活用した戦略

オートバックスグループはお客さまのカーライフをトータルにサポートしていきたいと願っています。その一環として展開している車検・整備は順調に拡大が進んでおり、当社が推進するトータルカーライフ事業戦略で重要な役割を果たすとともに、車検・整備に訪れたお客さまがカー用品を購入するといった相乗効果もあって業績に大きく貢献しています。今後は既存店舗における認証工場資格\*および指定工場資格の取得拡大を継続しながら、「テクノキューブ」の展開を加速することで車検・整備の一層の強化を図り、新たな顧客層のさらなる開拓を目指します。

「テクノキューブ」は今後も安心・親切・丁寧な対応で魅力あるサービスの提供に努め、車検・整備の強化に向けた欠かすことのできない存在として進化していきます。

認定取得累計店舗数の推移



\* 一定要件を備え、自動車の分解・整備ができる資格



Store Format Strategy - 店舗戦略

# スーパーオートバックス (Type I / Type II)



## トータルカーライフを提案する「スーパーオートバックス」

「スーパーオートバックス」は地域密着型のカー用品総合量販専門店「オートバックス」と比べ、敷地、売場、ピット数、品揃え、駐車場を大幅に拡大し、より広範囲な商圈をカバーしています。さらに雑貨売り場や軽飲食コーナーなども備えてエンターテインメント性を付加し、幅広い層のお客さまにご来店いただける店舗を目指しています。

また「オートバックス」は一般のドライバーをターゲットにしていますが、「スーパーオートバックス」は車好きのハイエンドユーザーにもご満足いただけるように、高い専門技術を必要とするピットサービスを充実させ、お客さまのトータルカーライフをサポートできる体制を整えています。

## <スーパーオートバックス Type I / Type II の業態特徴>

	スーパーオートバックス Type I	スーパーオートバックス Type II	オートバックス
コンセプト	エンターテインメント型トータルカーライフ専門店 (大商圈型旗艦店舗)	カーライフ創造型専門店 (エリアドミナント中核店舗)	カー用品総合量販専門店 (地域密着型店舗)
ターゲット	カスタマイズ好きこだわり派ドライバー	品揃えとサービスを追及するドライバー	一般ドライバー
商圈	半径 20 キロ圏内	半径 10 キロ圏内	半径 5 キロ圏内
基準売場面積	500 坪～	300 坪～	150 坪～
ピット数	40 台～	15 台～	7 台～
駐車台数	200 台～	80 台～	50 台～



オートボックスグループでは全国に400店舗以上を展開する「オートボックス」に加え、「スーパーオートボックス」の出店強化も図っています。今回は当社が目指すトータルカーライフサービス業を実現するための戦略店舗である「スーパーオートボックス」を紹介します。

### 「スーパーオートボックス」の今後の展開

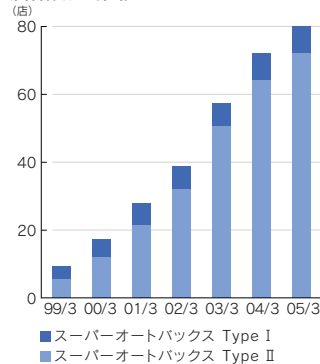
「スーパーオートボックス」は「Type I」と「Type II」の2つの業態に分類されます。「Type I」は「スーパーオートボックス」ブランドを定着させる旗艦店舗として、またオートボックスグループの新商品やサービスを実験的に提供する店舗として位置付けられています。店舗規模や品揃えも最大級で、6店舗\*(2005年9月末現在)を展開中です。

「Type II」は「Type I」よりも店舗の投資・規模を抑え、当社のエリアドミナント戦略の中核を担う店舗業態として、56店舗\*(2005年9月末現在)を展開しています。「スーパー

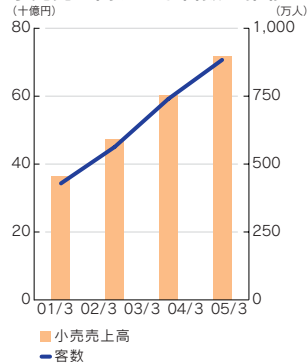
オートボックス」は「Type I」と「Type II」を合わせて62店舗\*を展開中ですが、今後はカー用品市場におけるシェア拡大を視野に入れ、より積極的な店舗展開を計画しています。「オートボックス」既存店からの業態転換に加え新規出店を継続し、2009年3月期末までには「Type II」を中心に101店舗\*の展開を目指しています。

※ 海外の店舗を除く

「スーパーオートボックス」  
店舗数の推移



「スーパーオートボックス」  
小売売上高および客数の推移





# トピックス

2005年  
7月

## ●英ハルフォーズグループと協力協定を締結

オートバックスグループは、お客さまによりご満足いただける商品とサービスを提供するため、英国に本社を置くハルフォーズグループ (Halfords Group plc) と 2005 年 7 月に協力協定を締結しました。

ハルフォーズはカー用品をはじめ、レジャー用品やサイクリング用品など約 11,000 アイテムを販売し、英国内で約 400 店舗を展開している業界トップの企業です。今後は両社の事業およびマーチャндаイジングモデルの成功事例の共有化や、商品の共同開発、研究および購入などで協力関係を築いていきます。これにより、お客さまによりご満足いただける商品とサービスの実現を目指し、豊かなカーライフのためにさらなる貢献ができると考えています。

- オートバックスグループ ETC 車載器累計販売台数 (セットアップ件数) 100 万台突破
- 『オートバックス走り屋天国セコハン市場富士店』をオープン (静岡県)

2005  
8月

- 『アジアクロスカントリーラリー\* 2005』に特別協賛
- 『オートバックス野田梅郷店テクノキューブ』を開設 (千葉県)  
※ アジアクロスカントリーラリー：タイ王国で開催された四輪駆動車ラリー競技です。

2005年  
9月

## ●中古車の個人リース 車両販売開始

アウトレット CAR プラン

オートバックスグループでは、お客さまにより手軽に車を楽しんでいただくために、「オートバックス」および「スーパーオートバックス」158 店舗 (2005 年 9 月 17 日現在) にて、中古車の個人リース商品「アウトレット CAR プラン」の販売を 2005 年 9 月より開始しました。この商品はオリックス自動車株式会社が開発しており、今年の 6 月に同社と業務提携を結んだ一環として当社で販売することとなりました。

商品は夏季に短期間レンタカーとして使用された車のみ 8 車種をラインナップし、限定 520 台 (8 車種合計) を販売します。また、全車に初回の車検、エンジンオイルおよびエンジンオイルエレメント交換ができる無料クーポン券が付属し、全国のオートバックスグループ店舗で利用可能です。この商品の販売開始は、当社が目指す事業領域の拡大に向けた具体的施策のひとつとして期待をしています。

- 『オートバックス福岡長尾店テクノキューブ』を開設 (福岡県)
- 『オートバックス走り屋天国セコハン市場福山店』をオープン (広島県)
- 『スーパーオートバックス羽村』をオープン (東京都)



お客さまからの厚い支持を集める

## オートバックスグループの プライベートブランド商品

オートバックスグループではお客さまにより充実したカーライフを提案するため、さまざまなプライベートブランド商品(以下PB商品)を開発し、販売しています。自分流のカーライフの楽しみ方を多くの方が創造できるようになって欲しい、そんな想いが詰まった当社のPB商品は、多くのドライバーから支持を得ています。

オートバックスグループが全国に展開する500以上の店舗には、常に多くのお客さまにご来店頂いています。これらの店舗ではお客さまのさまざまなご意見・ご要望に直接触れることができるため、時代とともに変化する市場のニーズを的確に捉えることができます。当社では「そうしたお客さまの生の声に応えたい」、そんな想いから独自のPB商品を開発してきました。昭和52年に業界初のPB商品としてオリジナルラジアルタイヤの他、エンジンオイルとバッテリーの発売を開始しました。以来多岐にわたる商品を展開し、それぞれがオートバックスならではの商品として進化し続けています。今後もPB商品をトータルカーライフ事業戦略の一翼を担う存在として、一層のラインナップ充実とお客さまのご満足を満たす魅力的な商品の提供に努めてまいります。

### 主な商品



コンフォートラジアルタイヤ「Maxrun Excela ME3 (マックスラン エクセラ エムイースリー)」(写真左)

合計15サイズをラインナップし、幅広い車種の純正サイズ履き替え等に対応しています。

スタッドレスタイヤ「North Treck N1 (ノーストレック エヌワン)」(写真右)

従来のモデルに比べ氷雪性能を向上させ、合計20サイズをラインナップしています。

### エンジンオイル 「VANTAGE (ヴァンテージ)」シリーズ

お客さまの商品選びをわかりやすくするためにパッケージデザインを一新し、21種類48アイテムをラインナップしています。



### 自動車専用バッテリー「DYNAGRID (ダイナグリッド)」シリーズ

お客さまのニーズに合わせて選びやすく補水タイプ、手間なしタイプに分類され、4グレード56アイテムをラインナップしています。



AUTOBACS PRO ORIGINAL HIGH PERFORMANCE MOTOR OIL  
**Vantage**

エリート el Kapitán

部分合成油

鉱物油に化学合成油を加えることで性能を向上。経済性と性能を兼ね備えたベースオイルを使用しています。

**5W-30**

API:SM ILSAC:GF-4



## 決算の概要

### 当中間期の業績

当中間期における日本経済は、個人の所得税および住民税の定率減税廃止や消費税引き上げに関する議論、原油価格の高騰など、先行きに対する不透明感が散見されるものの、企業部門の好調が家計部門へと波及したことにより、国内民間需要に支えられた緩やかな景気回復が見られました。

カー用品市場においては、オイル・バッテリーなど一部の商品について需要の縮小が見られ、カーディーラーなどの異業種との競合が全般的に強まる傾向が続きましたが、ポータブル型および多機能ナビゲーションのヒットやETC車載器の市場拡大が継続するなど、全般としては比較的安定した需要動向で推移しました。このような市場環境のもと、当社グループとしては、引き続き「カー用品販売業からトータルカーライフサポート業、カーライフスタイル提案業へ」の変革を推進し、顧客満足および在庫・設備・人員・販促の4つの効率向上を目指した「エリアドミナント戦略」、シナジーおよび新規事業分野を創造する「トータルカーライフ事業戦略」、企業価値の向上を追求する「海外事業戦略」の3つの事業戦略の遂行により、財務基盤の再構築と成長軌道への転換を図ってきました。

これらの施策の結果、販売面においてはオイル・バッテリーおよびカースポーツなどの落ち込みがありましたが、ETC車載器やナビゲーションを中心としたカーエレクトロニクスのほか、アクセサリ、タイヤ、車販売および車検・整備などのサービス売上の健闘もあり、売上高は前期比6.3%増の1,139億16百万円となりました。このうちフランチャイズチェーン加盟法人に対する卸売部門の売上高は、同4.4%増の657億88百万円、小売部門の売上高は同4.4%増の461億27百万円となり、その他に、当中間連結会計期間より不動産およびリース物件の賃貸借料として20億円を売上高に計上しています。収益面は、売上総利益率の改善および販売費の抑制により、営業利益は前期比189.6%増の65億8百万円に、経常利益が同75.6%増の85億20百万円となりました。中間純利益は特別損失に事業再構築費用を計上していますが、41億8百万円と前年同期に比べ大幅な増益となりました。

### 一株当たりの業績

当中間期の中間配当金は、当初予定の一株当たり普通配当金21円から5円増配の26円とし、また期末配当金につきましても2円増配し26円とする予定です。その結果、一株当たりの年間配当金は普通配当金52円となる見込みです。また、一株当たりの中間純利益は115円80銭、株主資本は、前連結会計年度末に比べ100円31銭増加して4,296円56銭となりました。

### 財務状況







当中間期末の資産は、前連結会計年度末に比べ1.6%増の2,064億30百万円となりました。現金及び預金が226億31百万円減少した一方で、主に、有価証券が278億67百万円増加したことによります。負債は、前連結会計年度末に比べ0.6%減の534億50百万円となりました。事業再構築引当金を8億87百万円計上していますが、主に、支払手形及び買掛金が12億69百万円減少したことによります。

### キャッシュ・フローの状況

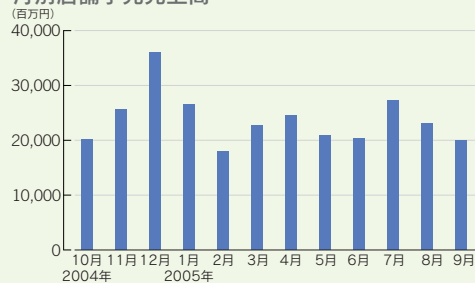
当中間期の営業活動から得られたキャッシュ・フローは前期比335.8%増の88億31百万円となりました。これは、法人税等の支払および仕入債務の減少がありました。主に税金等調整前中間純利益の計上、および売上債権の減少があったことによるものです。投資活動で使用したキャッシュ・フローは前期比59.1%増の76億31百万円となりました。これは、有価証券の償還・売却による収入がありましたが、主に有価証券の取得による支出および投資有価証券の取得による支出があったことによります。財務活動で使用したキャッシュ・フローは前期比26.0%増の10億79百万円となりました。これは、短期借入金の増加がありましたが、主に長期借入金の減少および配当金の支払があったことによります。

以上の結果、当中間期末の現金及び現金同等物は、前中間期末に比べ137億47百万円増加し、513億10百万円となりました。

## 業態別店舗数

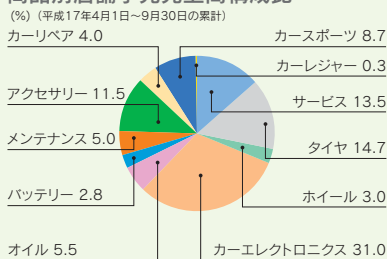
	第58期 (平成17年3月31日現在)	第58期中間期 (平成16年9月30日現在)	第59期中間期 (平成17年9月30日現在)	増減
スーパーオートバックス:	60	57	62	+5
 Type I	6	6	6	-
 Type II	54	51	56	+5
 オートバックス	410	415	405	-10
 オートハローズ	16	16	14	-2
 オートバックス走り屋天国セコハン市場	26	24	28	+4
 オートバックスエクスプレス	5	4	5	+1
海外(スーパーオートバックス、オートバックス)	12	12	12	-
合計	529	528	526	-2

月別店舗小売売上高\*

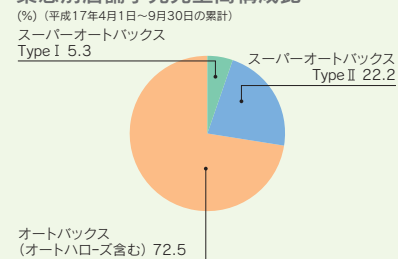


\* オートバックス、スーパーオートバックス Type I、スーパーオートバックス Type II、オートハローズ業態を対象としており、その他業態は含んでおりません。

商品別店舗小売売上高構成比\*



業態別店舗小売売上高構成比\*



## 連結貸借対照表

単位：百万円

	第58期 (平成17年3月31日現在)	第58期中間期 (平成16年9月30日現在)	第59期中間期 (平成17年9月30日現在)	増減
<b>(資産の部)</b>				
流動資産	104,214	87,538	107,493	19,955
現金及び預金	51,306	37,658	28,675	△8,982
受取手形及び売掛金	12,919	10,504	11,360	8,560
有価証券	5,124	3,142	32,991	29,849
たな卸資産	17,247	19,746	18,564	△1,182
繰延税金資産	1,906	2,533	1,806	△727
短期貸付金	841	1,096	814	△281
未収入金	14,133	11,959	11,644	△314
その他	1,444	2,001	2,002	1
貸倒引当金	△710	△1,102	△365	737
固定資産	99,010	108,033	98,936	△9,097
有形固定資産	51,399	55,226	49,582	△5,644
建物及び構築物	23,917	25,408	22,725	△2,683
土地	21,070	22,345	20,927	△1,418
その他	6,411	7,472	5,930	△1,542
無形固定資産	4,253	3,187	4,482	1,294
投資その他の資産	43,357	49,619	44,871	△4,748
投資有価証券	12,883	16,293	15,641	△651
長期貸付金及び長期差入保証金	26,307	28,152	25,375	△2,777
繰延税金資産	4,802	5,297	4,938	△358
その他	1,880	1,848	1,421	△427
貸倒引当金	△2,516	△1,972	△2,505	△533
資産合計	203,224	195,572	206,430	10,857
<b>(負債の部)</b>				
流動負債	34,609	30,173	33,318	3,145
支払手形及び買掛金	14,335	12,670	13,065	394
短期借入金	4,863	2,875	4,754	1,878
未払法人税等	1,159	2,373	2,872	498
その他	14,252	12,254	12,626	372
固定負債	19,153	19,066	20,131	1,064
社債	8	8	—	△8
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	10,000	—
長期借入金	415	571	304	△206
退職給付引当金	385	506	363	△142
役員退職給与引当金	429	115	421	305
繰延税金負債(固定)	—	—	394	394
その他	7,914	7,864	8,646	782
負債合計	53,763	49,240	53,450	4,209
<b>(少数株主持分)53,450</b>				
少数株主持分	478	622	539	△82
<b>(資本の部)</b>				
資本金	31,958	31,958	31,958	—
資本剰余金	32,241	32,241	32,241	—
利益剰余金	90,121	86,859	93,283	6,424
その他有価証券評価差額金	206	50	399	348
為替換算調整勘定	△426	△286	△318	△32
自己株式	△5,118	△5,113	△5,124	△10
資本合計	148,982	145,709	152,440	6,730
負債・少数株主持分及び資本合計	203,224	195,572	206,430	10,857

金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

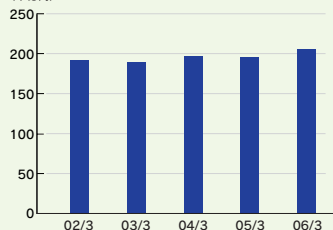
### Point 1

#### 資産の部

当中間期末の総資産は、前期末(平成17年3月月末)時点から3,572百万円増加しました。これは主に流動資産において現金及び預金が減少したものの、有価証券が大きく増加したことなどによります。

#### 総資産(中間期)

(十億円)



### Point 2

#### 負債の部

当中間期末の負債は、前期末(平成17年3月月末)時点から265百万円の減少となりました。なかでも流動負債において支払手形及び買掛金が減少したほか、未払い法人税等が増加しています。

## 連結損益計算書

単位：百万円

	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)	第59期中間期 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	増減
売上高	226,779	107,209	113,916	6,706
売上原価	158,583	75,292	79,518	4,225
販売費及び一般管理費	60,827	29,669	27,889	△1,779
営業利益	7,368	2,247	6,508	4,260
営業外収益	7,900	3,805	2,997	△808
営業外費用	2,574	1,199	984	△214
経常利益	12,694	4,853	8,520	3,667
特別利益	1,262	607	204	△402
特別損失	7,081	5,027	2,004	△3,023
税金等調整前中間(当期)純利益	6,875	432	6,720	6,287
法人税、住民税及び事業税	3,910	2,289	2,769	479
法人税等調整額	268	△674	△143	530
少数株主損失	231	102	14	△88
中間(当期)純利益(損失:△)	2,928	△1,080	4,108	5,188

金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### 連結会計処理の変更

当中間連結会計期間より店舗の賃貸による不動産収入について、営業外収益から「売上高」に計上する方法へ変更し、対応する原価を販売費及び一般管理費と営業外費用から「売上原価」に計上する方法へ変更しました。また営業外収益の「情報機器賃貸料」に対応する費用を販売費及び一般管理費から営業外費用へ変更し、金融子会社におけるリース料収入を営業外収益から「売上高」に計上する方法へ、対応する原価を営業外収益の控除項目から「売上原価」に計上する方法へそれぞれ変更しました。この結果、従来と同一の方法によった場合と比較して、売上高は2,000百万円、売上総利益は500百万円、営業利益は1,399百万円増加しています。なお経常利益に与える影響はありません。

当中間連結会計期間より、海外子会社の決算日について、従来連結決算日と海外子会社の決算日の相違が3ヶ月を超えないことから、当該海外子会社の決算日現在の財務諸表を使用し、重要性がある場合は連結上必要な調整を行っていましたが、正規の決算に準ずる合理的な手続による決算(仮決算)に変更しました。この結果、従来と同一の方法によった場合と比較して、売上高は1,025百万円増加し、経常利益および中間純利益は79百万円減少しています。

- 注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 39,942百万円  
2. 1株当たり中間純利益 115円80銭

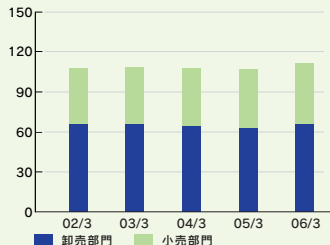
## Point 3

### 売上高

売上高はETC、ナビゲーション、アクセサリー、サービスなどの分野が好調に推移し、既存店の売上が改善した結果、前期比6.3%の増収となりました。売上高の内訳は、卸売部門が57.8%、小売部門が40.4%、その他売上が1.8%です。

### 売上高(中間期)

(十億円)



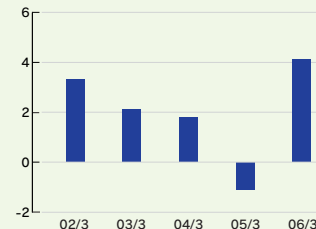
## Point 5

### 中間純利益(損失)

中間純利益は、販売費及び一般管理費の減少や前期減損会計を早期適用したことによる1,080百万円の特別損失の計上があったことにより大幅な増益となりました。

### 中間純利益(損失)

(十億円)



## Point 4

### 販売費及び一般管理費

当中間期の販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次の通りです。

従業員給料手当	9,950百万円
退職給付費用	283百万円
地代家賃	3,037百万円
減価償却費	1,811百万円
貸倒引当金繰入額	6百万円

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)	第59期中間期 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,979	2,026	8,831	6,804
税金等調整前中間(当期)純利益	6,875	432	6,720	6,287
減価償却費	5,536	2,652	2,464	△187
減損損失	4,384	4,384	—	△4,384
事業再構築引当金の 増減額(減少:△)	—	—	887	887
売上債権の増減額(増加:△)	△1,286	3,356	4,011	654
たな卸資産の増減額(増加:△)	1,492	△1,013	△1,256	△243
その他	△458	△4,749	△3,213	1,535
小計	16,545	5,063	9,613	4,549
利息及び配当金の受取額	792	434	133	△300
利息の支払額	△80	△27	△38	△10
法人税等の支払額	△6,276	△3,443	△877	2,566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,276	△4,796	△7,631	△2,834
有形及び無形固定資産の 取得による支出	△6,349	△3,570	△1,298	2,271
有価証券・投資有価証券の 取得・売却	△400	△2,148	△7,684	△5,536
その他	5,473	922	1,351	429
財務活動によるキャッシュ・フロー	236	△856	△1,079	△222
短期借入金の増減額(減少:△)	1,922	△487	974	1,461
長期借入れによる収入	120	119	—	△119
長期借入金の返済による支出	△587	—	△1,209	△1,209
自己株式取得による支出	△7	△3	△5	△1
配当金の支払額	△1,384	△638	△851	△212
その他	171	154	12	△141
現金及び現金同等物に係る換算差額	55	34	△12	△46
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	9,994	△3,592	108	3,700
現金及び現金同等物の期首残高	41,155	41,155	51,150	9,994
連結子会社増加に伴う現金及び 現金同等物の増加額	—	—	51	51
現金及び現金同等物の中間(期末)残高	51,150	37,563	51,310	13,747

金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

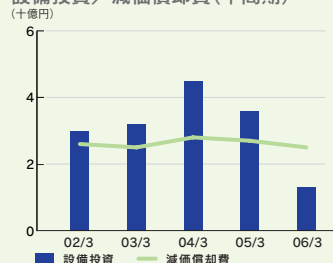
### Point 6

#### 設備投資／減価償却費

当中間期の設備投資の内訳は以下です。

新規出店	362百万円
情報化投資	508百万円
リース用資産	205百万円
その他	222百万円

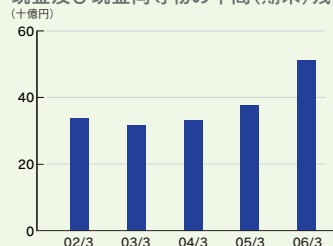
#### 設備投資／減価償却費(中間期)



### Point 7

#### 現金及び現金同等物の 中間(期末)残高

現金及び現金同等物の中間(期末)残高





## 要約個別貸借対照表

単位：百万円

	第58期 (平成17年3月31日現在)	第58期中間期 (平成16年9月30日現在)	第59期中間期 (平成17年9月30日現在)	増減
<b>(資産の部)</b>				
流動資産	98,147	82,404	102,027	19,622
固定資産	99,952	110,725	102,830	△7,895
有形固定資産	41,779	43,937	40,900	△3,037
無形固定資産	3,427	2,482	3,628	1,146
投資その他の資産	54,745	64,306	58,302	△6,004
資産合計	198,099	193,130	204,858	11,727
<b>(負債の部)</b>				
流動負債	29,495	27,236	31,884	4,647
固定負債	18,211	18,133	19,739	1,606
負債合計	47,706	45,370	51,623	6,253
<b>(資本の部)</b>				
資本金	31,958	31,958	31,958	—
資本剰余金(資本準備金)	32,241	32,241	32,241	—
利益剰余金				
(利益準備金+その他の剰余金)	91,079	88,593	93,732	5,138
その他有価証券評価差額金	201	50	394	344
自己株式	△5,087	△5,083	△5,092	△9
資本合計	150,392	147,760	153,234	5,473
負債及び資本合計	198,099	193,130	204,858	11,727

金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 要約個別損益計算書

単位：百万円

	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)	第59期中間期 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	増減
売上高	194,195	92,414	95,964	3,550
売上原価	154,694	73,895	76,305	2,410
販売費及び一般管理費	32,018	16,392	12,628	△3,763
営業利益	7,482	2,126	7,031	4,904
営業外収益	6,634	3,460	1,772	△1,688
営業外費用	1,511	570	712	142
経常利益	12,606	5,017	8,091	3,073
特別利益	2,205	950	297	△653
特別損失	9,071	5,910	2,376	△3,533
税引前中間(当期)純利益	5,740	57	6,011	5,954
法人税、住民税及び事業税	3,131	1,865	2,195	330
法人税等調整額	634	△551	216	767
中間(当期)純利益(損失:△)	1,974	△1,256	3,600	4,856
前期繰越利益	2,571	2,571	2,854	282
中間配当額	745	—	—	—
中間(当期)未処分利益	3,800	1,315	6,454	5,138

金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

- 注) 1. 資本の部の表示方法について  
 商法施行規則の改正に従いまして、当期から資本の部の表示方法を変更しています。  
 2. 有形固定資産の減価償却累計額 29,846百万円  
 3. 一株当り中間純利益 101円45銭

# 株式情報 (2005年9月30日現在)

発行する株式の総数	109,402,300株
発行済株式の総数	37,643,742株
株主数	9,648名
決算日	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	利益配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
	なお臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

1単元の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 <a href="http://www.autobacs.co.jp/">http://www.autobacs.co.jp/</a> において提供いたします。

上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所、 ロンドン証券取引所
---------	-------------------------------

名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
---------	--------------------------------

名義書換事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
------------	---------------------------------------

郵便物送付先 電話照会先	東京都府中市日鋼町1番10(〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
-----------------	--

住所変更等用紙のご請求	0120-175-417
-------------	--------------

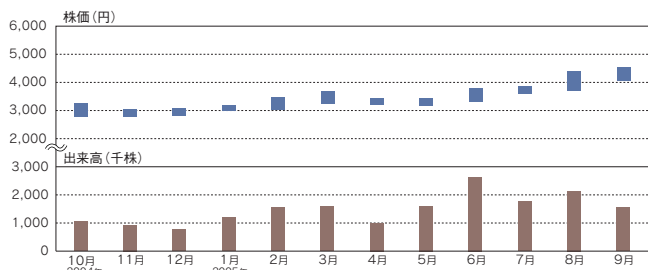
その他の照会	0120-176-417
--------	--------------

名義書換取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
---------	-----------------------

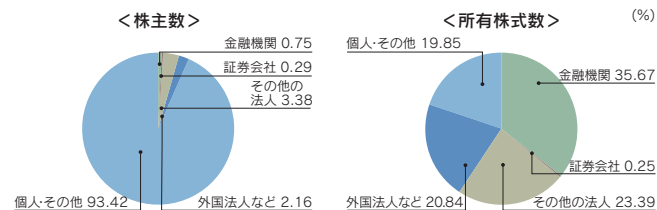
大株主一覧	<p>有限会社スミノホールディングス 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 財団法人在宅医療助成勇美記念財団 住野 正男 ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リュー エス タックス エグゼンプテッドベンション ファンス 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口) 住野 公一</p>
-------	---

注) 1. 当社は自己株式2,157千株(所有割合5.73%)を保有していますが、当該自己株式は議決権の行使が制限されているため、上記の大株主から除いています。  
2. 上記以外の名義書換のなされていない株主については、有価証券報告書をご覧ください。

## 株価推移 (大阪証券取引所)



## 所有者別状況



## 住所変更の手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きをお願い致します。株主招集ご通知や配当金などをお届けできなくなります。

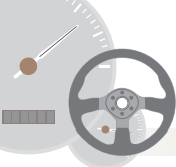
ご変更は、住友信託銀行(株)の電話照会先(フリーダイヤル)までご連絡ください。なお、証券保管振替制度をご利用の株主さまについては、お取引の証券会社で変更手続きを行ってください。

## 株主優待制度について

『オートボックス』、『スーパーオートボックス』などで、1,000円(消費税込み)のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券(300円引)を、3月末日(6月発送)と9月末日(12月発送)の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。

### ご参考

- 配布枚数(半期毎): 所有株式数 100株~999株 優待券25枚  
1,000株~ 優待券50枚
- 優待券は商品券・他の引引(買い物券、クーポン券、値引券等)を併用の場合、値引き後の金額に対してご利用いただけます。
- 優待券は日本国内のオートボックス、スーパーオートボックス、オートボックス走り屋天国セコハン市場、オートボックスエクスプレスおよびオートハロースの全店舗でご利用いただけます。ただし、オートボックス・カース、海外店舗ではご利用いただけません。
- 優待券は燃料、車両、保険、税金、飲食、タバコ、特価商品などにはご利用いただけません。  
※車検につきましては、重量税、印紙代、自賠責保険料、リサイクル料にはご利用いただけません。車検基本料、検査手続き代行料、完成検査料、その他整備工賃、部品代にはご利用いただけます。(手続き費用は、一部店舗によって名称が異なります。)



# 会社情報 (2005年9月30日現在)

## 商号

株式会社オートバックスセブン (AUTOBACS SEVEN CO., LTD.)

## 創業

1947年2月

## 資本金

319億5千8百万円

## 主な事業内容

当社は、各種自動車用品部品の委託製作、販売、輸出入を主要事業として、小売総合専門店を直営店とフランチャイズ店と並行して全国にチェーン展開しております。

## 役員一覧

### 取締役

#### 代表取締役

住野 公一 CEO

#### 取締役 (オフィサー兼務)

野上 明 COO

湧田 節夫 Co-COO

エリアドミナント戦略推進統括

経森 康弘 Co-COO

トータルカーライフ事業戦略推進統括

井手 秀博 財務基盤整備

横井 英昭 人材基盤整備

住野 耕三 海外事業戦略推進兼アジア事業部長

松尾 隆 経営戦略推進兼経営戦略推進室長

### 取締役

中田 康雄<sup>※1</sup> (カルビー(株) 代表取締役社長兼 CEO)

宮内 英樹<sup>※1</sup>

### 監査役

森野 孝太郎<sup>※2</sup> 常勤監査役

吉田 治邦<sup>※2</sup> 常勤監査役

住野 泰士 常勤監査役

田邊 健介<sup>※2</sup> 監査役

## 主要な事業所

本社	(東京都江東区)	欧米事業部	(東京都江東区)
北日本エリア事業部	(仙台市泉区)	アジア事業部	(東京都江東区)
北関東エリア事業部	(千葉県市川市)	中国事業部	(東京都江東区)
南関東エリア事業部	(千葉県市川市)		
中部エリア事業部	(名古屋市名東区)		
関西エリア事業部	(大阪府吹田市)		
南日本エリア事業部	(福岡市博多区)		

## オフィサー (取締役を除く)

森本 弘徳	エリアドミナント戦略推進兼店舗開発兼業態開発事業兼 エリアドミナント戦略推進室長
武田 健一	トータルカーライフ事業戦略推進兼カー用品事業兼 トータルカーライフ事業戦略推進室長
伊藤 浩明	北日本エリア事業部長
小林喜夫巳	北関東エリア事業部長
角倉 正親	南関東エリア事業部長
戸出 謙	中部エリア事業部長
松村 晃行	関西エリア事業部長
江本 吉弘	南日本エリア事業部長
森本 眞臣	U-PARTS 事業兼 U-PARTS 開発部長兼 カスタムカー開発部長
釜田 尚文	車検整備事業
榎 宏介	C@RS 事業兼 C@RS 事業推進部長
深山 義郎	新規事業
志野 修市	中国事業兼中国事業部長
小平 智志	戦略推進基盤整備兼システム基盤整備

※1 商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役

※2 「株式会社」の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役

# オートバックスグループ ホームページのご紹介



お客さまや株主の皆さまにオートバックスグループへの理解を深めていただけるよう、充実したホームページを公開しています。ポータルサイトは二つ。弊社の企業情報サイトと、商品・サービスや店舗についてご案内する『オートバックス ドット コム』です。是非ご利用ください。

## <http://www.autobacs.co.jp/> 株式会社オートバックスセブン

オートバックスセブンの企業情報サイトです。沿革、経営戦略など基礎的な情報を掲載した会社案内、ニュースリリース、IR情報などが閲覧いただけます。



## <http://www.autobacs.co.jp/seven/ir/> 株式会社オートバックスセブン IR情報

IR情報のページです。IR資料や株価情報、株主情報などを掲載しています。過去のIR刊行物もご覧いただけます。



### 財務ハイライト

### IR資料

月次情報、決算短信、  
有価証券報告書、アニュアル  
レポート、ファクトブック

株主通信、決算説明会資料

### 株価情報

株主情報

優待制度、株主メモ、公告

IRに関するFAQ

資料請求

## <http://www.autobacs.com/> 『オートバックス ドット コム』

オートバックスグループの、お客さま向けポータルサイトです。お客さまのカーライフに役立つ車の基礎知識をはじめ、お得なセールやキャンペーンなどの情報が満載です。さらに店舗検索、インターネットでのショッピングなど、便利なサービスも提供しています。

### 主な業態のホームページ

#### <http://www.superautobacs.com/> 「スーパーオートバックス」

エンターテインメントカーライフメガストア「スーパーオートバックス」のホームページは、豊富な商品・サービス、最新のイベント案内など、魅力がいっぱいの充実した内容です。

#### <http://www.autobacs.com/secohan/> 「オートバックス走り屋天国セコハン市場」

中古カー用品のデパートオートバックス走り屋天国セコハン市場」のホームページには、各店舗の掘り出し物など、お買い得情報がぎっしりと詰まっています。



IR情報に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

経営戦略推進室  
IR・インフォグループ

電話  
03-6219-8718

ファックス  
03-6219-8769

e-mail  
investors@autobacs.com



植物性インクを使用し、古紙配合率100%の再生紙に、水なし印刷をしています。

**AUTOBACS SEVEN CO., LTD.**

株式会社 オートバックスセブン 東京都江東区豊洲5-6-52 ISTビル 〒135-8717